放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:2025年10月

事業所名:放課後等デイサービスキッズランド虹　第２単位

		チェック項目	実数			割合
			はい	いいえ	合計	はい / いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	5	100% / 0%
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	0	5	100% / 0%
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	5	100% / 0%
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	5	100% / 0%
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	5	100% / 0%
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	5	100% / 0%
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	5	100% / 0%
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	5	100% / 0%
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	5	0% / 100%
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	5	100% / 0%
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	5	100% / 0%
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	5	100% / 0%
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	5	100% / 0%
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	5	0	5	100% / 0%
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	5	100% / 0%
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	5	100% / 0%
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	5	100% / 0%
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	5	100% / 0%
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	5	100% / 0%

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	5	100% 0%
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	5	0	5	100% 0%
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	5	100% 0%
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	5	100% 0%
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	0	5	100% 0%
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	5	100% 0%
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	5	100% 0%
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	5	100% 0%
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	5	100% 0%
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	5	100% 0%
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0	5	100% 0%
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	0	5	5	0% 100%
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	5	100% 0%
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5	5	0% 100%
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	5	100% 0%
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	5	100% 0%
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	5	100% 0%
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	5	100% 0%
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	5	0	5	100% 0%

保護者への説明責任等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	5	100% 0%
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	0	5	100% 0%
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	5	100% 0%
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	5	100% 0%
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	5	100% 0%
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	5	100% 0%
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	5	100% 0%
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	5	100% 0%
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	5	100% 0%
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	5	100% 0%
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	5	100% 0%
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	5	100% 0%
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	5	0	5	100% 0%
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	5	100% 0%
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	5	100% 0%
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	5	100% 0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2025年10 月

事業所名：放課後等デイサービスキッズランド虹　第２単位

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	他の事業所に比べ狭いと感じられますが子ど もたちが安心・安全に過ごせる環境構成、活 動に応じて活動場所の選択、活動内容を工夫 し、限られた広さで思う存分できるようにし ています。	活動的には工夫次第で問題がありませんが、死角となる場所がありますのでその場所を把握し事故・怪我がないようにしています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	安心・安全の為、職員配置は基準配置＋有資格者を配置しております。	利用者様の体調等により、個別対応もできるよう、臨機応変に対応できるようにしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	建物の構造上、階段の段差でバリアフリー化は難しい。その為、利用者様には必ず職員が付き添い、見守り・補助を強化しております。	利用者様には危険な階段の上り下りをしないよう、階段の上り下りの前にお話をしたり、階段手前に絵表示で示す等、対策をしております。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	利用者様の特性に合わせた空間となっておりま す。	安全確認を日々行い、心地よい環境になるよう今後も気をつけていきます。また、子どもたちが楽しんで参加できるよう環境を整えていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	特性に合わせた空間となっておりますので、座卓やテーブル椅子等、それぞれに応じた過ごしやすいスペースが提供されております。又、2部屋ありますので(フローリングの活動室・学習室)それぞれ活動内容に応じ、使い分けたりしております。	子どもたちが安全、安心して過ごせる空間づくりに努めていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	ミーティングを行い、日々の業務改善に繋げております。	全ての職員が共有・把握ができるよう努めてまいります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	保護者様にアンケートを実施し、業務改善に繋げています。アンケート以外にも保護者様からのご意見やご要望に誠実に対応し、改善に繋げています。	アンケートでいただきました貴重なご意見をもとに改善すべき点は早急に改善いたします。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	日々のコミュニケーションの中でも意見を交流できる時間を随時確保しています。	今後も、柔軟な対応ができるようにしていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	第三者による外部評価は行っていません。	今後、実施予定である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	研修の年間計画を立て、実施している他、虐待防止研修等必要に応じた研修を随時実施しています。	参加できない職員には、録画視聴にて研修受講し職員全員が受講できるようにしています。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	支援プログラムを作成し当社HPにて公表しております。	より質の高いサービスを提供できるように努めて参ります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	ニーズや課題を分析し、職員間で話し合い、作成をしています。	個々の子どもにあった支援計画が立案できるように努めて参ります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	支援会議で全職員が意見を出し合い、本人にとっての最善の利益を考慮し計画に反映させている。	ご利用者の配慮すべき点や最近の様子について職員間で情報共有をして、子どもにあった支援ができるように努めていきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	職員間で共有し、全職員が確認し支援するようにしています。	利用日に支援計画を確認し、その日の支援について共通認識のもと行えるように努めて参ります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	日々のミーティングや支援会議にて利用者様の様子や状況等を把握している。	子どもの日々の様子を職員間で情報共有してアセスメントにつなげていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	５領域を踏まえねらいや支援内容も具体的に設定している。地域との繋がりを大切に高校卒業後次のステップに移行しやすいよう高校生との関わりや障碍者施設のお祭りにも積極的に参加している。	各項目に対して必要なニーズを考慮した上で適切な目標を立て、具体的な支援内容を個別に設定できるよう努めて参ります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	活動内容と目的を共有し、ポイントを明確にすることで、有効的な支援ができるよう職員会議にて図っています。	個々の特性や発達ニーズに沿った活動プログラムや季節感なども取り入れていけるよう努めて参ります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	活動内容が固定されることなく、柔軟に変更されています。同じ内容の活動であっても、ステップアップさせた活動内容であったり、積み重ねることで自信へと繋ぐことができるプログラムとなっております。	事業所間で活動について報告を行い、協力し日々工夫できるように努めて参ります。また地域連携からも様々な地域の行事に参加していきます。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
提供	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	他の事業所に比べ狭いと感じられますが子ど もたちが安心・安全に過ごせる環境構成、活 動に応じて活動場所の選択、活動内容を工夫 し、限られた広さで思う存分できるようにし ています。	活動的には工夫次第で問題がありませんが、死角となる場所がありますのでその場所を把握し事故・怪我がないようにしています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	個別のニーズに応じた支援と集団活動を通じた活動を融合させることで、より充実した支援を提供しております。	時間的に個別活動の支援がおこなうことができない日もありますが、集団活動の中で個別に対応できるように努めていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	活動内容と目的を共有し、ポイントを明確にすることで、有効的な支援ができるよう職員会議にて図っています。	職員の役割分担を明確にすることで、安全に活動や支援をおこなうことができるように情報共有に努めていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	支援終了後又は翌日午前中までに振り返りを行い改善点があれば次の支援に活かすことができるように努力しています。	打ち合わせ時間が少なくなる長期休みにも、支援終了後に打ち合わせをおこない職員間の情報共有に努めていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	放課後デイサービス計画に基づいて記録をしております。必要時読み返しができるよう整理しています。気づいたことは共有しています。	記録に取り、会議のなかでも職員間の情報共有として伝達し、支援の改善に努めていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	最長でも6カ月に1回実施し判断しています。	支援の記録から利用者様のステップアップを目指した計画を作成できるよう努めて参ります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	ガイドラインを用いて、楽しめるような活動や支援を行っている。	全職員がガイドラインを理解し支援をおこなえるよう、社内研修等を更に行って参ります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	利用者様が自分で選択し自己決定できるような活動(選択活動等)取り入り自分のペースで決断を下せる機会を作っております。このような活動体験を活かし、将来自己決定できるよう支援して行きます。	研修等を進め、誰でも参加できるような体制を作っていきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	必要に応じて参加しております。	これからもより密な連携を図り、子どもの生活全般を鑑みて必要な支援を行えるようにして参ります。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	必要に応じて連絡が取れる体制を整えております。	子どもたちの安全のために、学校との情報共有、連携に努めて参ります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	学校へお迎えに伺った際に共有しております。	さらに細かい点における情報共有が出来ていないため、積極的に努めてまいります
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	必要に応じ対応できる体制を整えていきます。	就労にむけて地域の事業所と協力し、体験等を積極的に行えるように体制づくりをしていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	問い合わせがあった場合は、保護者の承諾を得て提供します。	連携を図れるように積極的に活用していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	必要に応じ対応できるよう体制を整えていきます。	交流の機会を多く設けて、多くの社会体験、交流の機会を設けていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	児童クラブや児童館のご利用者様との交流はできていませんが、地域のお祭りやイベントに参加した際、同学年の子どもたちと交流できる機会を設けております。	交流の機会を多く設けて、多くの社会体験、交流の機会を設けていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	市町村からの協議会参加要請がある時には積極的に参加します。	北方町に確認をしてまいります。必要に応じて参加していきたいと思います。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	送迎時や連絡帳、アプリなどでもお知らせできるようにしております。	全ての保護者様と共通理解を持てるよう、信頼に努めて参ります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	年に1回程度、保護者の方や地域の方が参加できるような講演会や研修の機会を設けるようにしております。	個別にも保護者の要請により即時対応できるような体制を取って参ります。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時に行っております。又、保護者様から質問があった際は説明をし、共通理解できるようにしております。	随時対応できるように、また定期的に保護者様とお話ができる場を検討しております。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	モニタリング時に説明をして同意を得ている。	保護者の方へのモニタリングを速やかにお返事がいただけるように工夫して参ります。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	他の事業所に比べ狭いと感じられますが子ど もたちが安心・安全に過ごせる環境構成、活 動に応じて活動場所の選択、活動内容を工夫 し、限られた広さで思う存分できるようにし ています。	活動的には工夫次第で問題がありませんが、死角となる場所がありますのでその場所を把握し事故・怪我がないようにしています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	送迎時やモニタリングなど悩みを聞く機会を随時設けている。	変更点が分かりやすくお伝え出来るように、工夫して参ります。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	随時相談に応じております。	更に支援が必要な場合の対応を検討しております(必要な機関との連携に努めて参ります)
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	夏祭りに保護者様にも来ていただき、父母の会ではありませんが交流できる場を設けました。引き続き、交流できる機会の提供を行っていきます。	保護者会等、イベントや親子参加の活動を通じて保護者様同士の連携支援に努めて参ります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	苦情につきましては、進撃に受け止めるとともに管理者へ報告・相談をし、適切に対応ができるようにしている。	小さな案件でも職員間の情報共有、改善に努め、保護者様との信頼関係が築けるよう、全職員が努めて参ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	毎月発行『かわら版』を配信し、毎日HPにはブログを公開し、支援内容をオープンに公開しております。	アプリでの発信力を高め、、通信を楽しみにしていただけるよう今後も努力してまいります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	個人情報は外部の目に触れないよう配慮し、文書等の破棄にはシュレッダーを使用しております。	気の緩みが起きないよう、十分に注意してまいります。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	常にどうしたらよいのか職員1人の意見や考えにならないよう共有し、共通認識のもと対応しております。	子どもや保護者が不安にならないように、常に配慮できるよう心がけていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	事業所へのイベントに招待はしておりませんが、こちらが外出で出向いたりしております。今後、招待し地域連携を図れるようにしていきます。	交流を通して地域に開かれた事業所を目指していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	各マニュアルを策定し、定期的な避難経路の確認や訓練を行い、もしもの災害に備えるよう心掛けております。当社ではHPからも防災情報がわかるようになっております。	子どもたちの安全のために、情報共有と訓練に努めていきます。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	様々な災害のケースを想定して、訓練を行うことで災害発生時に対応ができるようにしております。	計画に沿って定期的に必用な訓練を実施して参ります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	当施設では、服薬などの医療行為をしておりません。ご家族のご協力のもと、安心安全適切な支援を提供しております。又、契約時、同意書にも記入をお願いしております。てんかん発作などのご利用者様には通院・服薬内容等ご家族と共有しております。	医師、ご家族とも連携を図り、対応に努めていきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	同意書に記入していただき、職員間で、アレルギーの共有、周知していいます。	ご相談に応じて、医師との連携を図っていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	計画的に委員会を開き安全管理研修や訓練を行っている。	安全計画は施設入り口掲示しており、面談時等にもお話をさせていただいておりますが、周知徹底出来るように致します。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	各種マニュアルを作成し、いつでも確認ができるようにしている。	全保護者様に理解していただけるように取り組んでいきたいと思います。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	広い視野を持ち、気づきができるように日々の支援の中で起きたヒヤリを記入すると共に、改善策・対応策を話し合っています。	小さな事例が重大事故に繋がらないように職員間で情報を共有し、同様なミスが二度と起こらないように徹底してまいります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	全職員、虐待防止研修を受講しています。	研修だけではなく日ごろから全職員で事例を話し合い、意識付けて参ります
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	原則、身体拘束は行っておりません。利用者様の尊厳を守りながら安全な環境・安心できる環境を最優先に考え、最善の支援を提供しております。	当社では、切迫性、非代替性、一時性を伴う場合以外は行いません。(利用者の尊厳を守りながら、安全な環境を提供することを最優先に考え、最善の支援を提供しております)